

平成 23 年度 会長の挨拶



横須賀三浦放射線技師会会长 服部 祐治

会員・賛助会員の皆様にはご健勝でお過ごしのことと思います。

平成 22 年度総会は、東北地方太平洋沖地震の影響により、3月開催予定を4月まで延期し、来賓の臨席などもご遠慮いただき開催させていただきました。また懇親会の開催も、度重なる計画停電によりやむなく中止させていただきましたことも併せてお詫び申し上げます。

昨年は医療崩壊という文字が医療界をにぎわし、ようやく立ち直りの兆しが見え始めた時に、東日本に想定をはるかに上回り起こった自然災害と原子力災害に、日本国そのものが大きな痛手を負いました。未曾有の震災に世界各国からわが国に対し救いの手が差し伸べられ、物理的にも精神的にも大きな支えとなっており、海外からの迅速な援助に驚きと感謝の念を隠せません。復興には長い年月と辛さに耐える精神力が要求されており、皆が心を一つにして取り組まなければならない問題です。

また、原発の収束にはまだまだ時間を要すると思われ、被ばく測定の派遣など当会としても協力できればと考えております。

3月11日の震災から2ヶ月を数えますが、震災の復興に対し自粛するのではなく経済の活性化が復興の手助けになると言われています。

当会も平成23年度事業計画について理事の増員が見込めそうであり、昨年度来欠員となっている副会長の人選や、担当理事の手当てを行い会活動の活性化を行いたいと考えています。また、現在三春町にある救急センターが、数年後の建て替えが決定となり、当会としても救急センターの今後の規模などを検討し、その規模に見合うような装置の要望を提出し検討していただいております。

私たちは、仕事や会活動を通じて地域医療に貢献できるように努力致します。
今後とも会員・賛助会員皆様のご協力をお願い申し上げます。

平成23年05月07日